



# 大竹中学校だより

〒739-0614 広島県大竹市白石一丁目 8-1  
☎(0827)52-5177 Fax(0827)52-5178  
【HP】members.fch.ne.jp/otakejhs/



-いのち輝く学校-  
令和5年3月24日(金)  
第44号  
大竹市立大竹中学校  
校長 十亀 琢磨

☆☆「大竹中学校だより」カラー版は、大竹中学校ホームページでご覧いただけます。☆☆



## 1-3 ハートプロジェクト ～「ぼく」の生き方から考えたこと～



ぼくはしんだ。自分でしんだ。

皆さんは、自分の命を大切にしていますか？自分の命の重さについて考えたことはありますか？ 私たち1年3組は、道徳の授業で子供の「自死」について考えました。「自死」とは、死を自ら選び取るという意味です。

そこで私たちは谷川俊太郎さんの描いた、一冊の「ぼく」という絵本を通し、まだ幼い小学生だった「ぼく」の生き方についてクラス全員で考えました。

私たちはこの「ぼく」という少年がどうすれば「死ぬ」ということを選択せず、生きることができたのかを考え、「ぼく」に向けて手紙を書きました。

「ぼくへ」

○今、楽しいことはありますか？嬉しいことはありますか？もし、嫌なことや意味が分からなくて死にたいと思う前に誰かに相談するのはどうですか？相談するのは誰でもいいです。家族、先生、友達、私でもいいです。きっとみんながあなたのことを助けてくれます。あなたは一人じゃないよ。

○よく頑張ったね。えらいよ。辛かったね。寂しかったよね。よく一人で耐えたよ。きっと誰かに助けて欲しかったし、相談をしたかったよね。でもできなかった。言える勇気、気持ちを理解してもらえないと思ったんだよね。でも、あなたは一人じゃないよ。友達もいれば先生だっている。きっとどこかにあなたの気持ちを理解してくれる人がいるよ。だれもあなたを責めたりしないよ。辛いときは、我慢しないで助けを求めてもいいんだよ。きっとあなたを助けてくれるよ。

そして、最後にこの作品を通して1年3組で考えたことを紹介します。

・自分が今生きていることは幸せであることを知りました。もし友達や周りが困っていることがあれば相談を聞いたり自分にできることをしていきたいと思いました。

・嫌なこと、辛いことがなかったとしても死に追い込まれることを知り、生きることの大切さや自分の意見を伝えることの大切さを知りました。

・「ぼく」のように自分で抱えていたことを言い出せずに自ら死を選択し命を絶ってしまうというのは本当にあってはならないことだと思いました。そして誰かに相談し気持ちを打ち明ける勇気をもつことが大切だと思いました。

・一人で抱え込まず相談することや、「思い」はしまっておくことも大切な時もあるけど、時には表に出し人に伝え話すことが大切だと思いました。

・人生は辛いことも嬉しいことも沢山あります。その中で死んでしまいたいと思うことがあるかもしれない。けど、生きているなら家族がいて友達がいる。それだけで幸せなことがたくさんあると思うので、前向きに生きていきたいと思いました。

私たちのすぐ近くに「ぼく」はいます。「ぼく」はもうひとりの自分かもしれません。

少しでもこの「ぼく」と同じ選択をする人がいなくなり、よりよく生きられる世の中にしていきたいと思いました。



# 発表を聞いての感想の紹介



○今、死にたいと思う人がいるかもしれないので、その人が困っていたら助け合って生きています。今、僕が生きているのは、家族や友達のおかげだと思っています。生きていることは日常だと思っているけれど、「ぼく」の話を聞いて、自分の命を大切にしていきたいと思いました。

○相談は本当に大切なことだと改めて思いました。自殺をしてしまう人は年々増えていっています。SNSなどでもいいので、「よく今まで頑張ったね。」「えらいね」などの言葉をかけられる人になりい！そして、「もう少し生きていたい。」と言わせられる人になりたい！と思いました。  
(1年1組)

○まわりから見たら楽しそうに見えて、誰も心配しなくていいだろうと思ってしまうけれど、本当は心の中に悩みを一人でかかえてしまっている人もいるのだと知りました。だから、自分で悩みを信じられる人に相談することが自殺をしないために大切なことだと知りました。

○世界では死にたいと思っている人がいて、死にたいと思っている人が仮に1000人だとしたら、全員が誰か頼れる人に相談すれば、1000人の命が助かると思ったので、私も自分が悩んでいたなら誰かに相談し、身近な人が悩んでいたなら寄り添ってあげたいなと思いました。  
(1年2組)

○「ぼく」は相談をすれば死ぬことはなく、助かっていたかもしれない。どんなことがあったとしても、死ぬことは、友達や親を悲しませることになるので、どんなことがあっても自殺は許されないなと思いました。僕も少しでも困ったことがあったら、誰でも相談してよいことがわかった。

○生きていると楽しいことやうれしいことがたくさんあるけど、同じぐらいにつらく、悲しいことがたくさんあり、それで命を落としてしまった「ぼく」のような人がいなくなるように誰かに相談したりすることが大切だと思いました。どうしたら自殺が減るのかは世界の問題だと思いました。  
(1年3組)

○自分の思いは、ときには誰かにちゃんと伝えることも大切だということが分かった。例えば、自分がどれだけ苦しくて、誰にでも話したり、相談ができなくて、死んでしまうことは、間違っているということがわかった。自分もストレスなどをかかえていても、誰かに相談できるようにしておきたいと思った。

○誰にだってかかえられる量には限りがあって、こんな思いするくらいなら死んじゃったほうがいくなって思う時があると思う。でもそれを自分だけがかかえるのではなく、誰かに相談することが大切だと思ったし、そう思っている人のことを気付いてあげられる人になりたいなと思った。  
(2年1組)

○自殺の問題というのは難しいと思いました。いつのまにか追い込まれていたり、他の人と何かあったり、この世の中に絶望したり、自ら命を絶つ理由はあるかもしれないけど、命を大切にすることも大事と思いました。周りに相談することも大切だと思いました。

○つらいことや苦しいことがあっても相談できない、話す勇気がなかったりして生きることがいやになり、自分で死ぬことを選ぶ人がいることが分かりました。もし、自分に相談してきたり、自分を頼ってきた人がいれば、その人に寄り添って答えてあげたいと思いました。  
(2年2組)

○生きていく上でつらいことや苦しいことがあるのは絶対で、死にたいという気持ちは強くなるけど乗り越えることで楽しいことが待っているとしました。つらいことや苦しいことがあったら、黙ったり、逃げるのではなく、家族や友達、仲間がいるので相談することが大切だと分かりました。

○誰かが悩んでいる時、相談しやすい人になればいいなと思います。命を大切に、自ら命を落とすことがないようにしたいです。自分も家族、友達・先生に頼らせてもらっている分、まわりの人に相談されたら話をしっかり聞いたりして、人を助けられる人になればいいなと思いました。  
(2年3組)

